

令和 6 年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第 1 回入退院時連携推進部会を開催しました

- 6月24日(月)に第1回入退院時連携推進部会を開催しました。参加者は、部会メンバー8人、事務局3人、上越地域在宅医療推進センター2人の13人でした。
- 令和5年度の入退院時連携推進部会の振り返りを行い、その後、ケアマネジャーを対象に実施した『ケアマネジャーとかかりつけ医との連携に関するアンケート調査』の結果について意見交換を行った。

【アンケート調査結果について】

○部会内での意見交換

- ・ 回答率が67.6%と高く、ケアマネジャーの関心の高さを感じた。自由記載ではケアマネジャーの率直な意見が聞くことができよい機会となった。
- ・ 医師との連携が有事(具合が悪くなった時、困ったときなど)の時のみになっている人が多い。担当に決まった時の最初の連携をしていない人が多いとわかった。
- ・ 医師との連携に苦手意識を持っている人が多いと、一歩踏み出せないのではないか。
- ・ ケアマネタイムを更新したことで相談時間や連絡方法の問題は解決できると思う。
- ・ 連携のツールとして、今後はMCS(メディカルケアステーション)がもっと有効活用できるとよい。
- ・ 医師が連携をどう思うかという視点ではなく、利用者のために医師とどのように連携すべきかを考えるのが大事である。

○取り組みにつなげるための課題

- ・ ケアマネジャーのスキルアップに着目するのか、医師との具体的な連携に着目するのかで取り組み内容も変わってくる。
- ・ 今回のアンケート結果を、ケアマネジャー

が感じている連携の実態として医師側へ伝え、医師の意見も聞けるとよい。

- ・ 日常的に連携が取れる仕組みができれば、有事の時もスムーズに対応できるのではないか。
- ・ 医師としては誰がケアマネジャーなのか分からないと連携を取りたくても取れない。そのため、担当になった時、変わった時には教えてほしい。誰が担当で、どのサービスを使うかだけでもわかるとよい。時間を作らなくても、名刺やケアプラン、地域連携連絡票等の情報を送ってもらうだけでも構わない。最初の挨拶ができるようになるとその後の連携時のハードルが下がるのではないか。
- ・ 研修会には、ケアマネジャーだけでなく、医療機関からも参加があると、医療・介護連携についての意見交換が行え、相互理解にもつながるのでよいと思う。



【今後の取組内容】

- ・ アンケート結果から部会としての具体的な取り組み内容を検討する。
- ・ 11月頃に研修会を予定。

【次回について】

- ・ 令和6年9月頃に開催予定。